

名古屋記念病院

村上 賢治

越川 克己

消化器内科部長
消化器外科部長



越川部長

村上部長

取材・文

読売新聞中部支社 前編集委員
医療コーディネーター

片岡 太

患者さんサイドに立った質の高い医療提供を目指して 消化器病センターの活動について

名古屋記念病院(名古屋市天白区平針、藤田民夫院長)は、消化器病センターを作って7年目になるが、今年1月に村上賢治・消化器内科部長が、4月には越川克己・消化器外科部長が着任、これを契機により充実した消化器病センター作りを目指して診療に取り組んでいる。村上部長と越川部長に消化器病センターの果たす役割や今後の方向性などについて話を聞いた。

Q 消化器病センターは設立されて7年になります。改めて消化器病センターの設立目的について話してください。

村上部長 / 消化器病の診断と治療、それに術後の化学療法といった一連の診療過程の中で、特に消化器内科と消化器外科の垣根を取り払い、双方の診療科が密に協力体制を取りながら、患者さんの利便性を考えながら質の高い医療を提供することを目的としています。

越川部長 / 消化器内科と消化器外科が互いに患者さんサイドに立ち、無駄なく、効率よく最適な医療を実現するために診療に取り組もうというのが設立の目的です。

Q 消化器病センターのスタッフは。

村上部長 / 消化器内科医8人と消化器外科医5人の計13人です。

Q この人数のスタッフで質の高い医療が提供できていますか。

越川部長 / ベッド数などから考えてこのスタッフで十分に質の高い医療の提供は確保できています。

Q 消化器病センターの特徴は。

村上部長 / 消化器内科、消化器外科、それに化学療法科の3科の専門医が患者さんに関するカンファレンス(症例検討会)を

綿密に行い、それぞれの専門医の立場から意見を出し合い、話し合って最適な治療方針を導き出していることが特徴として上げることができます。

越川部長 / カンファレンスは患者さんに最適な医療を行うためには欠かせない医療の基本といえます。従って、このカンファレンスが十分に行われないと、結果として患者さんに大変なご迷惑をかけることになります。そうしたことにならないようにするために消化器病センターでは一つひとつの症例について時間を割いて真剣に話し合い、患者さんの状態に合った最善の答えを出すように最大限の努力をしているのが大